



献血推進に向けた研修方法に関する研究

研究分担者

松田 清功（日本赤十字社 血液事業本部）

研究協力者

井上 慎吾（日本赤十字社 血液事業本部）

里中 美晴（日本赤十字社 血液事業本部）

研究要旨

より安全な輸血用血液製剤を安定的に供給するためには、日常からより有効となる献血推進を展開する必要がある。この10年で若年層献血者数が約30%減少しており、将来に向けて若年層献血者確保が求められている。今後、学生献血推進ボランティア（以下「学生ボランティア」という。）が献血推進（啓発）をどの様に実施していくかが益々重要となってきている。

昨年度に全国学生献血推進実行委員会が中心となり献血者の意識等を調査するため全国の献血会場においてアンケートを実施した。その結果を踏まえ、今年度どの様に活用していくのか、また継続的な目標を掲げて、都度実施した内容を検証し、組織としてPDCAをまわせられる体制を構築する。

研究目的

近年、全国単位、ブロック（7ブロック）単位での学生ボランティアの研修体制は充実してきており、その際、各ブロック単位で実施している献血推進広報及び確保対策等を情報交換することにより、取り組み事例等の情報が水平展開できており、各ブロックにおいて、充実した献血推進広報及び確保対策等が実施できている。

今後、若年層献血者が減少するなかで、学生ボランティアの活動が益々重要となってきている。

各ブロックの学生ボランティア代表で構成している全国学生献血推進実行委員会において、例年、全国学生統一クリスマス献血キャンペーンを企画しているが、学生ボランティア自身が昨年度は献血者の意識調査のアンケートを実施し結果報告までは行った。その結果に基づき、平成28年度学生ボランティアが求められていることを考え、新たな企画を検討し、実施に向けて日本赤十字社が支援する体制を構築する。また、実施した内容を検証し、次の平成29年度同委員会委員に引き継いでいく体制を構築することが目的である。

研究方法

平成27年度委員会（1回）、平成28年度委員会（3回）において企画、立案、検証、引き継ぎを行い、代表者会議（1回）において企画の説明及び承認を得る。それを受けて、実施するために日本赤十字社が支援する。その内容を評価する。

1. 平成27年度全国学生献血推進実行委員会
第3回：平成28年3月19日～20日
2. 平成28年度全国学生献血推進実行委員会
第1回：平成28年5月14日～15日
第2回：平成28年8月26日
第3回：平成29年3月11日～12日
3. 全国学生献血推進代表者会議
平成28年8月24日～26日

研究結果

◆平成27年度第3回同委員会において、全国で学生ボランティアが実施したアンケート（質問事項16項目）の結果報告（協力者10,565人：内10代～20代が9,453人）を行い、分析・検証した。その結果を次年度委員に引き継いだ。

◆平成28年度第1回同委員会において、新委員がアンケート結果を分析・検証した結果、「初めて献血したきっかけ」の質問の回答（図1）で、①学内献血（23.1%）、②家族・友人に誘われた（約21%）、③献血セミナー（1.3%）に着目、及び「学生献血推進協議会の認知度」の質問の回答（図2）で、献血経験者（7,753人）の内、知らないと回答した方が6,426人（82.9%）であったことから、同世代からの献血推進と団体の認知度の向上を目的に、学生ボランティアが学内献血前（大学・専門学校等）に献血の必要性、輸血を受けられた患者さんの声を届けるために、献血セミナーをしていくことを考えた。また、全国で

統一した献血セミナー用スライド(図3)を各ブロックで分担し作成していくことで合意した。

- ◆全国学生献血推進代表者会議において、新企画の内容を説明し承認を得た。また、引き続き開催した平成28年度第2回同委員会において、意見等を集約し、10月中旬から2月末まで全国の学生献血推進協議会等で取り組んでいくことで取り進めることになった。また、取り組み内容を評価・検証・分析するために「実施計画書」(図4)、「実施時のアンケート」(図5)、「実施報告書」(図6)等も併せて作成することになった。日本赤十字社では、この決定事項を踏まえ、全国の血液センターに実施するための通知を行った。(平成28年10月12日)

実施計画は、計画立案までの期間が短期間ではあったが、約110回の実施計画であった。更に実施した内容は、各都道府県学生献血推進協議会等で結果報告、分析、検証、課題・懸案事項を纏め、ブロックとして、当該内容を更に纏める体制を構築した。

※実施の様子は各学生ボランティアが開催場所に依りて工夫を凝らして献血セミナーを実施した。(図7)

- ◆平成28年度第3回同委員会において、新企画の結果をブロックごとに報告し、実施内容等の情報共有と課題懸案事項を分析・検証する予定である。また、その内容を平成29年度新委員に引き継ぎ、平成29年度も学生ボランティアによる献血セミナーに取り組む予定である。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし

①呼び込み	487
②ポスター	98
③立て看板	67
④家族・友人に誘われて	578
⑤報道	24
⑥チラシ	17
⑦会場の雰囲気	38
⑧ハガキ	1
⑨HP/SNS等を見て	8
⑩学校・職場で知って(授業など)	453
⑪献血セミナー	36
⑫学内・職場献血	636
⑬記念品	26
不適合	287
合計	2,756

図1 初めて献血したきっかけ(献血経験者)

①知っている	1,233
②知らない	6,426
無記入	94
合計	7,753

図2 学生献血推進協議会を知っていますか

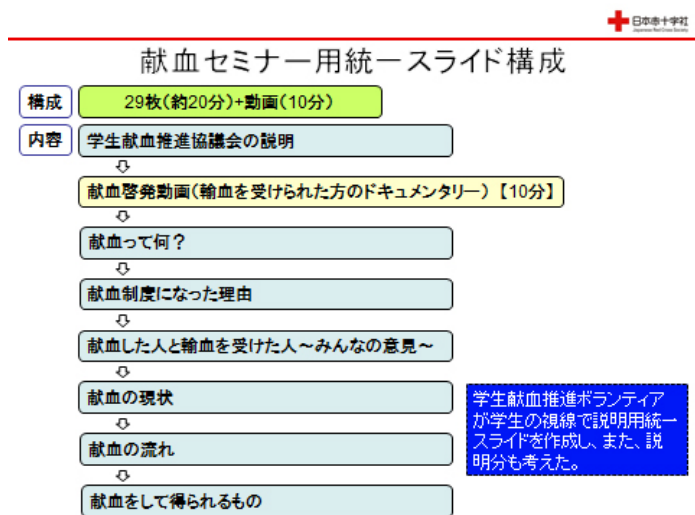


図3

学生献血推進ボランティアによる「献血セミナー」の実施計画について【地域用】

●●赤十字血液センター(報告者)

	実施場所	対象者			計画数
		大学(短大)生	その他※	詳細	
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					

※対象者欄の大学(短大)又はその他に該当する方に○をすること。
※対象がその他となる場合は詳細欄を記入すること。

図4

献血セミナー アンケート用紙

各団体で自由にあいさつ文を設定してください。

Q1. あなたの性別を以下から選択してください。
 ① 男性 ② 女性

Q2. あなたが該当するものを選択してください。
 ① 大学生 ② その他 ()

Q3. 献血の経験はありますか。
 ① 経験あり ② 経験なし

Q4. 「学生献血推進協議会」という団体を知っていましたか。
 ① 知っていた ② 知らなかった

Q5. 今回の献血セミナーはいかがでしたか？
 以下の3つから○で選択して、その理由をご記入ください。
 ① 良かった (《理由》)
 ② 普通
 ③ 良くなかった

Q6. 今回の献血セミナーを受けて、今後実際に献血に行こうと思いませんか？
 以下の4つから○で選択して、その理由をご記入ください。
 ① 自ら献血場所(献血バスや献血ルームなど)に赴いてしてみたい
 ② 献血ができる機会があれば献血してみたい
 ③ 献血ができる機会があっても献血をするかはわからない
 ④ 献血ができる機会があっても献血はしない
 (《理由》)

図 5

団体名	神奈川県学生献血推進連盟		ふりがな	●●●●	
作成者			作成者	●●●●	
実施日	平成28年11月30日	実施時間	12:15	~	12:50
実施場所	専修大学生田キャンパス	参加人数	29	人	
(詳細)	文化祭	対象	大学生		
【献血セミナー開催方法】					
専修大学学生生活課職員へ学生からセミナーの趣旨・実施案を説明→了承をもらう。学域献血の際に献血バスにてセミナー実施の告知チラシを配付。その他、神奈川県推進メンバーより友人等にチラシを配布し周知を行った。					
【献血セミナーの構成】					
スライド	動画	所要時間(分)			
順番変更	任意スライド説明文書(変更)	動画(使用)	タイトル(動画使用の場合)		
有	有	有	有	ありがとう！っていう言葉を入れて	25
有の場合はスライド 順番を記載すること					
1⇒8⇒9⇒7⇒18⇒19⇒20⇒13⇒14⇒15⇒16⇒5⇒29					
【実施風景写真】			【使用資材写真】		
					
良かった点			反省点		
①大学職員の援助もあり、スムーズに準備・開催できた。 ②セミナー後に献血推進ボランティアに興味を持っていただいた方に10名ほど声をかけていただけた。			事前周知を広く大学全域に行き渡らせることができなかった。		
【次回に向けて】					
①受講者に配布する資料を作成する。 ②大学と密に連絡をとり、セミナー実施においての事前告知や実施などの規模を拡大する。 ③より多くの学校で開催し多くの若者へセミナーを実施する。					

図 6

工夫した献血セミナー実施状況(参考)



図 7